

会 議 録

会 議 の 名 称	第 2 回 枚方市総合計画審議会 第 1 部会
開 催 日 時	平成 26 年 10 月 17 日 (金) 18 時 00 分から 20 時 00 分まで
開 催 場 所	市役所別館 4 階 第 3・4 委員会室
出 席 者	部会長：新川委員 副部会長：加藤委員 委員：岡田委員、北川委員、小原委員、徳久委員、本田委員、宮原委員、 三輪敦子委員、三輪信哉委員
欠 席 者	—
案 件 名	1. 第 5 次総合計画基本構想（素案）について 2. 今後の進め方について 3. その他
提出された資料等の 名 称	1. 基本構想（素案）に対する意見一覧 2. 第 5 次総合計画基本構想（素案）修正案 3. 総合計画策定スケジュール（案） 参考資料 1 第 4 回総合計画審議会及び第 1 回第 2 部会会議録 参考資料 2 「枚方市転入・転出に関するアンケート」の調査結果 参考資料 3 枚方市の社会動態（転入・転出）に関する資料
決 定 事 項	1. 基本構想（素案）に対する意見一覧について確認した。 2. 第 5 次総合計画基本構想（素案）修正案の内容について事務局から説明を受けた。 3. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 (事 務 局)	政策企画部 企画課

審 議 内 容

新川部会長

それではお時間になりましたので、第2回総合計画審議会第1部会を開催させていただきたいと思います。

前回の第1回ではいろいろとご議論いただきましたけれども、本日は、改めまして第5次総合計画基本構想（素案）、これについて引き続き審議をしてみたいと思っております。

今から大体2時間程度、8時頃を目処に、委員の皆様の間でいろいろと意見を交わしていただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは早速ですが、事務局の方から委員の出席状況の確認、それから会議録等のご報告をお願いしたいと思います。なお、すでに第2部会の方では、先週10月9日に2回目の審議をされて、私も少しだけ聞かせていただいたんですが、かなり熱心ないろんなご意見が出ていましたので、当第1部会としてもがんばりましょうということで、よろしくお願いたします。

それでは事務局の方から、委員の出席状況のご確認、会議録等のご報告をお願いしたいと思います。

事務局

本日の出席委員は10名中10名でございまして、「枚方市附属機関条例」に基づきまして、この部会が成立していることを報告申し上げます。

続きまして、お手元の資料を確認させていただきたいと思っております。

（手元の資料の確認）

それでは、説明させていただきます。

（資料1「基本構想（素案）に対する意見一覧」の説明）

（参考資料1「第4回総合計画審議会及び第1回第2部会会議録」の説明）

（参考資料2「枚方市転入・転出に関するアンケート」の調査結果」の説明）

（参考資料3「枚方市の社会動態（転入・転出）に関する資料」の説明）

新川部会長

どうもありがとうございました。ただいま、本日新たに配付された資料を含めまして、ご説明をいただきました。何かここまでのところでご質問などがございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

また、後ほどお気づきになられた点があれば戻っていただけるので、随時、適宜、ご意見あるいはご質問いただければと思っております。早速、今日の本題を進めさせていただければと思っております。

本日の案件、第5次総合計画の基本構想（素案）、これにつきましてご意見をいただいております。お手元に資料2ということで、これまでの議論を踏まえて修正していただいた基本構想（素案）が提出されてございます。これにつきまして、まずは事務局からご説明をしていただきたいと思いますけれども、特に、この基本構想の中でご覧いただければおわかりのとおり、前半の方は従来の基本構想の枠組みであるとか、それからこれまでのトレンド、本市の課題といったことが出てございますけれども、特に11ページ以降、この基本構想の具体的な基本目標、それについていろいろと今後の大きな目標が書き込まれてございます。できれば、今日は基本目標の内容などにつきましてご議論をいただければと思っております。

事務局からはこれらを中心に少しご説明をしていただければと思っておりますが、基本構想の審議にあたりまして、今申し上げましたような方針でよろしゅうございますか。特に、素案の後段の方の基本目標の中身を少ししっかりとご議論をいただきたい、そういう主旨でございますが、特にご異論なければそうさせていただきますと思います。

もちろん、それ以外の議論をするなどということではなくて、必要に応じてどの部分からでもご意見をいただければと思っておりますが、まずは少し意識をして、5つの基本目標に関連するご意見というのを中心に議論いただければと思っております。それでは恐縮ですが、事務局の方からご説明お願をいたします。

事務局	(資料2「第5次総合計画基本構想(素案)修正案」の説明)
新川部会長	<p>どうも、ありがとうございました。ただいま事務局から修正案ということでご説明ございました。本日、今ご説明をいただきました基本構想(素案)の修正案の特に10ページ以降、基本構想の「めざすまちの姿」、あるいはまちづくりの「5つの基本目標」がございしますが、このあたりを中心にご意見をいただいてまいりたいと考えております。そして、次回11月にはみなさんのご意見を踏まえて、できれば一定程度取りまとめができる段階に持っていきたいと思っております。限られた時間でございますけれども、積極的にご意見をいただければと思います。</p> <p>なお、先日の第2部会の議論を見ていただきますとおわかりのとおり、「めざすまちの姿」とか「5つの基本目標」のそれぞれについて、いろいろな意見が出ております。本部会としても、積極的にご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>前回一通りご意見をいただき、また、これまでのまとめをしていただきましたので、今日はそれを踏まえて、ここからは各委員お気づきになられたところから、どんどんご意見をいただければと思っております。特に指名をするということはいたしませんので、お気づきになられたところからご意見やご質問をいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
徳久委員	<p>10ページ目の「めざすまちの姿」なんですけれども、これをもし住民の方に理解してもらいたいというのであれば、きっと一言で言えた方がいいんだろうなという気がするので、「安全で」という部分を削除してしまって、「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」という方が語感としてはいいかなという気がします。</p> <p>それと、これは市民の方で決めていただければいいなと思うのですが、最近、行政もそうなんです、片仮名とか平仮名ブームで、漢字を使わないという傾向があると思うんですけれども、ただ、地名って歴史もありますし、アイデンティティーを示すものなので、そんなに平仮名にする必要があるんだろうかということちょっと私自身は思いました。ですので、「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」の「ひらかた」は漢字にして、「大阪で住むんやったら、ひらかた」は平仮名にするということでもいいんじゃないかなという気がします。たぶん、漢字、平仮名に関しては、ジェネレーションギャップもありますし、市町村合併の妥協の産物というのもあるので、いろいろと考えるところはありますが、いろんな年齢幅の人々が見たときに枚方のアイデンティティーはどこにあるのかということは市民委員のみなさんで考えてくれたらいいかなと思います。というような軽い発言でいいんですよ。</p>
新川部会長	<p>はい、ありがとうございます。とってもいい始まり方だと思いますので、「めざすまちの姿」、これはいかようにも議論ができるかなと思っておりますので、どうぞこれも含めてご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
三輪信哉委員	<p>同じところでちょっと言いますと、「あらゆる人にやさしいまち」というときの主語は一体何だろうと。あらゆる人がやさしいまちだったらわかるけど、ちょっと誰が誰にやさしくするのだろうっていうのがわからなくて、どう書けばいいのかわからないですが、その辺がちょっとひと工夫必要かなと思いました。</p>
三輪敦子委員	<p>私も「安全で、あらゆる人にやさしいまち ひらかた」は、語感的には「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」の方がいいなと思うんですが、ただ、「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」というのは情緒的過ぎるところがあって、じゃあ、あらゆる人にやさしいまちって具体的にどんなまちなのっていうところが、見えるようで見えてこないんですよ。見えてこない、具体的な施策が作りにくいかなというのがひとつ。</p> <p>2つ目は、「大阪で住むんやったら、ひらかた」の「大阪で」はいらないかなと思っていて、枚方は京阪のちょうど真ん中であって、京都との関係も結構強いと思うので、あまり「大阪で」というふうを考えなくてもいいかなと思います。あまり限定せずに、</p>

<p>岡田委員</p>	<p>「住むんやったら、ひらかた」と打ち出してしまっていていいのではないかと思います。</p> <p>それと、その上の基本構想の実現主体というところで、これは三者が支える形になっていて、まず、一番左に、市民・市民団体などが出てきていて、真ん中が事業者になっていて、一番右が行政になっていて、行政が一番控えめな立場、場所に見えるんですが、それは、市として、行政として、市民・市民団体や事業者の方たちにどんどん関わってくださという謙虚な姿勢の表れかもしれないですけども、やはり、総合計画というのは行政の計画だと思うんですね。第一義的な実施責任は行政にあるはずだと思うんです。というか、そうあるべきものだと思います。</p> <p>したがって、この並び方に私はちょっと違和感を感じていて、やはり行政の計画でありながら、市民・市民団体あるいは事業者の方にどんどん積極的に関わってもらい、あるいは関わってくれる、あるいはそういう姿を目指していくというような方向にするのが本来の姿じゃないかと思うので、謙虚な姿勢の表れかもしれないですけども、やっぱり行政の計画だということも、きちんと前に打ち出すべきだと思います。</p> <p>「5つの基本目標」の方ですが、5項目ともすべて「まちづくり」という言葉で締めくくっていますけれども、これは、能動的な表現ということでそれを取り上げられたということでもよく表れているなと思いますが、どうもすべての項目で「まちづくり」ということで締めくくってしまうのはすっきりしないと思いました。</p>
<p>三輪敦子委員</p>	<p>多少関係するんですけども、「安全で、利便性の高いまちづくり」という項目ですが、この表現よりも、下の「まちづくりワークショップでの意見・提案」のところにある「安全に歩けるまち」とか、「災害に強いまち」とか「犯罪の少ないまち」の方がイメージが膨らみやすい印象があります。こういう項目は、ある程度何でも取り込める形にしないといけないということもあるのかもしれないですけども、目標は、「まちづくり」というよりも、まちづくりの成果である「まち」だと思いますし、ワークショップで出ている言葉の方が、中身がよく伝わるかなという気がします。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>ワークショップでは、そういうまちをつくるのが大事だと、そういう言い方で表現していますね。</p>
<p>本田委員</p>	<p>「めざすまちの姿」のところなんですけれども、さっき皆さんがおっしゃったように、「安全で」とか「あらゆる人にやさしい」とか、ちょっとぼやっとしていると思う部分がありまして、これになる前の「住みたい、住み続けたいまち」というのもすごく良かったと思うので、ひっくり返すみたいですが、下の「大阪で住むんやったら、ひらかた」というところをまたちょっと主役にしたらどうかと思って。「住むんやったら、ひらかた」をメインにしてしまうと、「住み続けたい」というのが良かったとも思うので、「住むんやったら、住み続けるなら ひらかた」とか、それと、いろんなところで、枚方を出た人が帰ってきたいという声を結構聞くんです。それも入れてしまってもいいかなと。「住むならひらかた、住み続けるならひらかた」で「帰ってくるなら」っていうのはちょっとおかしいですけども「帰りたいまち、ひらかた」とか。これも結構心にぐっとくるものがあるんじゃないかなと。さっきの転入・転出の統計のところにも、仕事の都合で枚方を出ることになる人が多いということもあるので、それだったら、いつか枚方に帰りたいっていう思いを持っている人もたくさんいると思いますので、そういうのも入れたらいいのかなと思いました。</p>
<p>本田委員</p>	<p>基本構想の「総合計画の策定にあたって」というところも、このまま冊子になるようなイメージなんですかね。今一番意見が出ている「めざすまちの姿」とか「5つの基本目標」というのが一番シンプルでわかりやすく、目がいくところなんで、これを最初に出してしまって、なぜそうなのかということの後にした方がわかりやすいかと。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>そうですね。役所風に言うと、そもそもなぜやるのかということが最初に来て、中身がその次にというのが普通の報告書の感じですが、おっしゃるとおり、一番訴えたいの</p>

	<p>は、10 ページ、11 ページのあたりでしょうから。これをどう表現するかということですが、これは工夫の余地があるかもしれないですね。計画書としては、たぶん今いただいているような姿がベースになると思いますが、PR 用のパンフレットみたいなものは、「めざすまちの姿」とか「基本目標」とか、こういうものが最初のページに出てくる、そんなイメージかもしれません。僕が勝手に言っていますが、事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>前回のときも、本編とは別に概要版を作らせていただいております、この計画をまとめていく中で、どういった仕掛けをしていくかというところを、ご相談と言いますか、示させていただければと思います。</p>
三輪敦子委員	<p>基本目標というのは何でも網羅するような感じにならざるを得ないかとは思いますが、今の「5つの基本目標」から、基本的な考え方にある「選択と集中」の視点というのは、見えてきづらいですね。そこは、ちょっと残念な気がしますが、ただ、「選択と集中」というのは、それが行政のプログラムになった場合、言葉で言うほど簡単なものではないことも想像できますので、ここはちょっと考えどころかなという気がします。</p> <p>例えばですけれども、少子高齢化の進展が大問題だと言われていて、それは確かにそうなんですけど、ただ、個人的な経験から言っても、合計特殊出生率が1.3とか1.4というのは、決して、多くの人が望んだ結果としての数ではないと思っているんですね。いろんな事情が結果としてそういう数字になって表れてきているけれども、産みたくても産めない、安心して産めない、産むことが自分の将来にとって得だとは思えないというところに原因があると思っています。</p> <p>ですが、「住むんやったら、ひらかた」に帰ってくるんですが、枚方はすごく子育て支援が充実しているよ、枚方に行ったら、男性でも女性でも仕事を辞めなくても働き続ける環境が非常に整っているという評判が広がれば、とても大きなメリットになると思うんですね。そうすれば、恐らく、合計特殊出生率は改善すると思います。もし、市レベルで出生率が高いということが数字で出てきたら、枚方市にとってはすごく大きなセールスポイントになると思います。</p> <p>今日の午後、私は京都市の東山区にいたんですけど、京都市の東山区は日本で一番合計特殊出生率が低いところなんですね。それに対して、枚方は周辺の地方自治体に比べて合計特殊出生率がすごく高いと。もしそんなデータが出てきたら、それだけですごいことだと思いますし、それこそが、「住むんやったら、ひらかた」ということだと思います。具体的な施策が必要ですから言葉やスローガンだけでは実現しませんし、今申し上げたのは単に一つの分野ですけれども、「選択と集中」の視点というのをもう少しわかりやすい形で基本目標に反映できれば、それはすごく効果的で魅力的ではないかなと思います。</p>
新川部会長	<p>今ご指摘があったように、本当は何でもかんでも入るような基本目標ではなくて、例えば、「安心して子どもを産み育てることのできるまちをつくります」という目標を掲げれば、そこには、当然、子育て、あるいは出産、周産期の問題だけではなくて、子どもたちの学びの問題であるとか、それを支える福祉の問題であるとか、まちの活力の問題なんかもそれに関わってくると思うので、逆にそういう選択をして、それを中心に施策を展開していくという観点で言えば、基本目標というのは、今おっしゃったように具体的な問題を掲げる、できるだけ具体的にイメージしやすい言葉を掲げると、これも方向性としてはありだとは思いますが。</p> <p>もちろん、皆さん方からご意見があると思いますけれども、そのあたりも含めてぜひご議論いただければと。今は、特に子どもを安心して産めるように、そんなまちがいいんじゃないのと、一つの例としてご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。</p>
加藤委員	<p>「めざすまちの姿」で、先ほどの意見もありましたけれども、「住むんだったらひらかた、住み続けられるまちひらかた」というのが個人的にはいいなと。住み続けられるということは、これから10年後を考えたときに、少子高齢化の中で、財政的な負担がすごく大きくなる。だから、今の行政サービスをやろうとすると大変なことになると思うん</p>

ですよね。だから、行政が一定のサービスを提供し続けられる。逆に言うとサービスが提供されるから住み続けることができる。この理屈で、住み続けるためには、ある意味で何でもかんでもということではなくて、行政もスリムにしないとイケないし、そこからいろんなものが派生してくるようなキャッチコピーが素晴らしいなと思ったんですよね。だから「住み続けられる」というところから、要するに、市民が安全で、適切な行政サービスを受けられると。そのためには、行政的に財政がしっかりしていないとイケない。財政がしっかりするためには、やはり若い人たちがちゃんと入ってきてくれて、税金もちゃんと納めてくれるというようなロジックがあった方がきれいだと思いますね。そう考えると、今の「5つの基本目標」というのは、最初の「めざすまちの姿」から出てくるように、なんか総花的に出ているだけ。というふうにちょっと表現を変えると、たぶん言うことは同じであっても、より明確になってくるというような印象です。

さきほどの「選択と集中」というのは、住み続けるために何をしたらいいかということで、サービスを支えるためには、市民もそこに参画して、行政コストを下げなきゃいけないし、若い人、年齢構成もきちっと捉えなきゃいけない。だったら、そのために、育てやすいというか、そういう環境が必要になってくる。お話を伺っていると、そういう明確なイメージができそうな気がするんですけどね。

徳久委員

個人的にちょっと迷っているところがあって、皆さんでたぶん共有化しなきゃいけない問題があると思うんです。その一つが、今の「5つの基本目標」に関して言うと従来型の行政スタイルで総花的かと。行政は基本的に赤字の仕事もやらなきゃいけないものですから、当然、拾うべき対象がたくさんあって、それをフォローするという形がオーソドックスだし、いいかなという気がするんです。ただ、しかし、その一方で、確実に少子化は進みますし、状況は20年くらい好転しない中で、財政はとても厳しい状況にあるときに、「もう皆さんが知っているような社会じゃなくなるんで、そもそも行政スタイル自体を転換させなきゃいけないんだ」ということを、どこかで謳わない限りにおいては、今、加藤委員や三輪委員が言われたことは書けないと思うんですね。それはなぜかと言えば、住民の方々からすると、「少子化だね」ということはイメージできると思うんですが、20年後にどういう社会が来るのかということ、経済財政状況を理解してイメージするのは難しいと思います。

そこで、やはり行政としては、これまでのやり方じゃない枚方市を作ることで、非常に持続可能なまちをつくるのか、帰りたくなるまちなのか、住み続けたいまちをつくりますということを最初に言って、共有化した上で、じゃあ、新しい時代の新しいまちづくりとして、みんなが住みたい枚方を作るためには、どうしますというストーリーを作ってあげないと、「5つの基本目標」がなぜ絞られなきゃいけないのかという説明にならない気がするんですね。この社会が変わって、これまでのやり方じゃやれないということを書いていいのかどうかということが、一番大きな問題になるような気がするんですが、もし、それが書けるなら、今、加藤委員がおっしゃられたようなことが可能になるような気がします。

三輪信哉委員

今、おっしゃったことと本当に同じように思うんですけれども、10ページの人口減少の図では、向こう30年で8万人減少するということは、6分の1とか5分の1の人口がいなくなるという感じですね。しかも、その間に高齢化が著しく進んで、高齢者の割合が2割台から3割台に引き上げられていくと。ということは、猛烈に財政負担が大きくなっていく。ですから、収入源プラス支出増というのが見込まれるというのは、これは明らかなんですね。それに、抗いたいために人口を増やさなければならないというのが、今の議論だと思うんですけど。ただ、本当に人口って戻ってくるのだろうか。例えば、大阪市内に住んだ方がはるかに医療的にはサービスが高いし、しかも、ものすごくたくさんマンション群が市内にでき始めていますので、高齢者の市内回帰とかが十分に起こってきたりして、そのときに、人口8万人を呼び戻す政策って一体何なんだと思うので、もう少し現実路線に立って、たぶん今までの総合計画の中には書かれたことがないと思うんですけども、少し将来の状態をリアルに危機意識を持つような書き方、その上に立って何ができるか、だからこそ、「選択と集中」なんだという論理構成が少し見え

<p>新川部会長</p>	<p>るような書き方も必要なんじゃないかなと。あまり、右肩上がりでしたら、いつも夢を持ってやっていたのですが、今からはそうじゃない時代が来るということだと思うので、その辺でもう少しリアルな書き方があってもいいのかなと思ったりします。</p> <p>ありがとうございました。徳久委員からご指摘がありました。</p> <p>どちらかと言えば、市民の皆さんである種の危機意識を共有してもらおう方向で書いてみてはどうかという指摘がありました。各委員さん方がでしょうか。もちろん、今の論点だけじゃなくて、いろんな観点からご意見いただければと思います。もちろん、三輪委員からご指摘があったような高齢化とか人口減少とか、すでにこの修正案の中でもいろんなところでふれられてきていて、そういう問題を前提にして計画を作るんですということは言っているわけです。そこが、実際のまちの姿、あるいは基本目標というところにつながっていくときに、少しあいまいな形での基本目標になってしまっているということがあるかもしれません。現実の人口が減る、それから高齢化の比率は3割を超えるのではなくて4割近くなる、そういう推計ですので、これは本当に全くの危機なんですけれども。</p>
<p>三輪信哉委員</p>	<p>やはり、そうしていくと、税収が大幅にアップしないということを考えて、プラスマイナスを考えると、やはり市職員の数を激減せざるを得ないということもあり得ると思うんですね。市で言ったら市職員の担っていた膨大な行政サービスが、例えば、市民・市民団体というように、もっと外に分散されていくこともあり得るのかなと思ったりするんですね。そういうことを書き込めるかどうかはわかりませんが、きっとそういう時代がくると思うんですね。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>そういう協働型でこれからのまちづくりをしていかないといけないというのは、もう当初からここでの議論でも「大前提で議論しなきゃいけないね」ということは言ってきたのですが、それが、今ご指摘があったように、リアルに認識されているかどうかまではちょっと難しいかもしれません。でも、もう「そういう議論をしてもいいのではないか」というご意見もいただきました。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>例えば、転入・転出で比較的若い層が出ていきますね。先ほどご意見をいただいたのは、比較的年齢層の高い人は、大阪市に行った方が病院もたくさんあるとおっしゃったんですが、このデータから見ると、要するに比較的年齢の高い層も実は出ていっているということなのか。それとも若い人は、この辺にはワンルームマンションもないので、例えば、職場と自宅が近接する大阪市内にそういうニーズがあって出ていきますと。しかし、非常に暮らしやすいところなので、お金をもっている高齢の方はずっと住み続けているというのか。その点について、このデータはどのように読めるんですかね。</p>
<p>新川部会長</p>	<p>それでは、参考資料3で、特にどんなふうを読んだらいいのかということでございまして、絶対数で言いますとどうしても若い人の移動の方が目につきやすいんですが、高齢者も人数は少ないのですけれども、転入・転出の差や転入者に対する転出者の比を考えると、個々の絶対数は少ないですが、割合としては結構ある。</p> <p>さて、ここは事務局としてはどんなふうにご覧いただけるのか、何かお考えがあればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>お手元に配付させていただきました参考資料3だけでは読み取れないのですが、事務局の方の手元で確認している資料によりますと、平成24年から平成26年にかけて、高齢者の関係ですけれども、年齢区分で申しますと65歳以上の区分の増加は本市におきましても当区分が人口増の非常に大きい部分になっているといった状況になっております。逆に、年齢層の区分で申しますと0歳から12歳あるいは、15歳から64歳の区分につきましては、転出超過の状態になっているという状況になっております。</p>

徳久委員	<p>お金持ちの高齢者が出ていっているから、市にとってはあまりよくないですよ。大阪市等々に移るとするのは、物件を買って出ていくはずですから。</p>
事務局	<p>そうですね。基本的にはマンションに移る、こちらの戸建てを離れられるという意味だと思います。</p>
徳久委員	<p>そうですね。固定資産税とかでロスがありますよね。</p>
事務局	<p>もうひとつ、データがございまして、大阪市の方が出しております平成 23 年度の実績で、大阪府内の各市町村に対しての転入・転出の状況があがっております。それによりますと、大阪市にとっては、0～4 歳、5～9 歳、10～14 歳、この世代とその親世代になります 30 歳代、ここは大阪市にとっては転出超過になっております。それ以外の世代、例えば、50 歳代、60 歳代につきましては、大阪府内の各市から大阪市の方に転入超過という状態になっておりますので、先ほどの子ども、それから子育て世代以外の世代については、大阪府内の衛星都市から大阪市の方に転入超過の状況で、平成 23 年度の実態としてはございます。</p>
加藤委員	<p>今の内容は一般的なことですよ。大阪府内の諸都市から大阪市内に転入していると、そういうことですよ。</p>
新川部会長	<p>高齢者の世代は大阪市に入ってきている。若い親子の世代は大阪市内から出ていくと。ただ、枚方には出てこないで北摂あたりに出て行っているという状況のようです。</p>
加藤委員	<p>例えば、65 歳以上の人も枚方から大阪市内に出て行っていると。さっき、65 歳以上は増えていると言ってませんでしたか。ごめんなさい。</p>
事務局	<p>そうしましたら、先ほど申し上げました平成 24 年から平成 26 年の増減、人口の増減ということで、社会移動だけを捉えた資料にはなりませんけれども、人口の増減だけで見ますと、0 歳～14 歳の人口が 2,139 人の減、それから 15 歳～64 歳につきましては 9,713 人の減である一方、65 歳以上の人口につきましては 9,755 人の増という状況になっております。これは、平成 24 年から平成 26 年にかけての人口、いわゆる 64 歳から 65 歳になられた方も含めたものですけれども、人口の構成としてはこういった状況になっております。</p>
新川部会長	<p>ありがとうございました。 大阪市との間での 65 歳以上の方の転入・転出で見ると、今日いただいた参考資料 3 の 4 ページ目の表で見ると、65 歳～79 歳までが若干の転出超過ですね。ただ、絶対数からいえばたいしたことではないので。どこまでここを批判するかというのは一つ議論があるかと思います。</p>
加藤委員	<p>さっきの内容でいくと、若い人たちを留めようと思ったら、例えばワンルームマンションを建てると。いろいろと社会的に問題のある施設になるかもしれませんが。そういうワンルームマンション系は枚方にはないんですよ。若い人向けの施設はあっても少ないでしょ。</p>
事務局	<p>学生向けの分はあるかと思いますが。 勤め人になると、より大阪市の方が近いので、大阪市の方へ転出してしまうという構図だと思うのです。それで、家族ができると、例えば、3～4 人が住める一戸建てとかマンションということで、また大阪市から郊外へ出ていくというような構図になっております。</p>
加藤委員	<p>枚方に来てくれるかどうか。</p>

事務局	そこが、先ほど言われたように北摂の方が若干上回っているような状況ではあります。
新川部会長	私たちは、ここが負けているので何とかしないといけないという議論をしないといけないでしょうね。
三輪敦子委員	<p>皆さんにもいろいろと教えていただきたいんですが、先ほど出てきていた危機意識をどうするか。危機意識というのは確かに大切だと思うのですが、同時に、計画として書くときには、「危機はチャンス意識」みたいなものも必要かなと思っていて、そういうビジョンというのがないと、そもそもまちづくりというものは考えられないんじゃないかなとも思っています。</p> <p>そこでなんですが、少子高齢化がそんなにすぐには逆転しないだろうということで、それは想定しないといけない大前提だと思うんですが、この基本構想のトップの部分に、「少子高齢化の進展に伴い、税収の減少、社会保障関係費の増大」と書いてあるのですが、少子高齢化が進行したときに必ずこの2つはセットでやってくるものなのでしょうか。このことについては、他は想定できないという前提になりますか。これはまちづくりの専門家の先生方に教えていただければ嬉しいです。つまり、少子高齢化しながら、税収は減らないという可能性は全く想定できないということになりますでしょうか。</p> <p>それから、10ページの下の人口減少の推計ですが、この推計は必ず当たるのか。その2つについて、ご意見をお聞きしたいです。</p>
徳久委員	少子高齢化が進んでも税収を上げるためには、富裕層を呼び込まないといけないわけですよ。富裕層を呼び込める状況かという問題が大きい。
三輪敦子委員	富裕層を呼び込めるとその問題はある程度解決できるということにもなるんですか。
徳久委員	いえいえ。でも富裕層というのは基本的に都市部に偏在しますから、枚方に呼び込むというのはあんまり現実的じゃないと私個人は思います。当然、富裕層も東京に偏在していますし、関西の中でも特定地域に偏在している状況ですから、あまり現実的でない状況を設定しない方がいいと思いますね。
新川部会長	<p>単純に税収だけでいいますと、生産年齢人口 15 歳～64 歳の層が働いて納税をしてくださる。そこが市税としての収入としては大きくなってございますね。ですから、勤労者層というのが、しっかりと厚みを維持できればいいのですが、全体として人口が減る、その中で働かない人が増えている、高齢者という意味ですが、税金を納めない人が増えてしまう。そういう状況で一般的には、財政危機のようなことが想定をされていると。もちろん、今、徳久委員からもありましたように、富裕層であるとか、あるいは個人の住民税に頼らないで、例えば、産業都市的な収入がたくさんあったり、何某かの巨大な公共施設があったりして、そこから収入が入るというような話があればそれは別ですけども、どうも枚方でそれは非常に考えにくいということもありますし、日本の産業構造から言っても、これから飛躍的に特定の産業が発展してたくさんのお金を地域に落としていくということは非常に考えにくい。大阪全体でもいろいろバイオであるとか、医療であるとか、新しい産業をめざして動いておられますが、直ちに枚方がその恩恵を受けるということでもないで、どうも単純な人口の動態だけからすると、少子高齢化の中で、税収の減というのを逆転させるというのは非常に難しいかもしれない。</p> <p>そうすると、その目減り分を何とか少なくする、かかる費用をできるだけ節約をするという努力がどこまでできるかというところで、非常に暗い話になってしまうと困んですが、そういうところはどうしても出て来ざるを得ないかなとは思いますが、ただ、そこも考え方で、逆にそうやってお金がないならなりに、少なくなるなら少なくなるなりに、別の暮らし方を考えましょうかというようなこともあるかもしれませんし、お金のかからないやり方で、まちづくりしましょうという話もあるかもしれません。ここは知恵の働かせ方のようなところもあるかもしれません。</p> <p>一応、この人口推計自体は一般的には封鎖人口という言い方をされていて、これまでの</p>

	<p>トレンドというのを前提にして将来を推計するということになります。各年齢層別のそれぞれの動きというのを前提にしてやりますので、実は、今日この時点からすぐに、ちょっと経済の動きが変わってしまったり、地域の構図が変わったりするとすぐに影響を受けることはあります。ただし、大きな流れは変わらないと思ってください。多少の動きは出てきますので誤差は出てくるのですが、基本的な方向は変わらないとお願いして間違いのないと思います。これは、これまでの同様の推計でもほぼ大体は当たっているというところがあります。ただ、個別、小さな単位になればなるほど、要するに母数が小さくなれば、誤差は大きくなりますので、全部当たるわけではない。そういう前提で考えていただいてもいいと思います。</p>
徳久委員	<p>話を元に戻したいと思いますが、まちづくりの基本目標ですけれども、今、非常に暗い話をしていますが、人口が縮小していく社会の中で「これから行政はどうしますか」といった場合に、先ほど三輪委員がおっしゃっていたような「危機はチャンス」だという意識はあってもいいと思うんですね。そういうときに「5つの基本目標」とかで、例えば、「社会問題をみんなで解決するまち」みたいなことを1つ入れてみて、それは、育児であれば保育ママ制度をもっと入れるとか、たぶんこれから独居老人が増えていきますので、老人サロンみたいなものを作って、それは民間主体でやるんだけれども、そういう施策をしていく上で必要な規制緩和なり、所管の再編なりを行政もしますとか、そういう形でたぶんある特定の課題に対するぶら下がり方というのが書けるんだと思うんですね。ですので、総花じゃないようないくつかの目標を入れるというのも一つのやり方じゃないかなと考えます。</p>
新川部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>さて、仮にそうすると、どういう目標がみなさんにぴったりくるかがちょっと気になって。さっき、子育てというのは、あるいは子どもを産み、育てるという意見がありました。いかがでしょうか。いろんな観点からご議論いただければと思います。</p> <p>「めざすまちの姿」でいろいろご意見いただきました。それから「5つの基本目標」でも、「安全で、利便性の高いまちづくり」、これは、「安全に歩けるまち」とか「災害に強いまち」の方がわかりやすいというお話もあり、「子どもが光り輝き、文化が薫る」というところも、「子どもを産み育てやすいまち」の方がわかりやすい、その方が選択と集中らしいなというようなお話もいただきました。お話をいただいている項目もたくさんありますので、ぜひご意見いただければと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>他のところでもいいですか。</p>
新川部会長	<p>どうぞ、いろんなところからご議論いただければと思います。</p>
三輪信哉委員	<p>この議論の最初の方に「安全に歩ける」という話がございましたけれども、非常に重要だと思うんですが、枚方市内を津々浦々まわったわけではないので、僕の見方が間違っているかもしれませんが、若いお母さん方がバギーを押して、心配もなくおしゃべりしながら歩いているような歩道や、あるいは自転車が2列並んでニコニコしながら走れる道路とか、人間的なまちのあり方によって変わってほしいな。これは僕の個人的なことなんですが、そういうこと言えば、「安全で、利便性の高い」というところの点線で囲ってあります、ワークショップでの意見の「安全に歩ける」とか、歩行者重視、自転車重視にするまちづくりというのは、エネルギー的な面からも望ましいと私の個人的な思想としてあります。</p> <p>それから「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」のところなんですが、書き方が、高齢化していくとみんな寝たきりになるような感じがするんです。それで財政負担が増えるぞって言っているんですが、最近ちょっとおもしろい現象だと思います。新聞を見ていたら、現在の65歳以上の方で週に2回以上きっちり30分以上スポーツするという熟年が増えているんですね。それは、実は20代、30代よりはるかに多くスポーツ、運動をしているということが出ていまして、それを見ているとちや</p>

んとうまくいくんだなど。ですから、自分たちで意識して、最後まで元気でいることをめざして生きていこうという高齢者の方がたくさん増えてきているのは素晴らしいことだということと言うと、「健やかに、生きがいを持って暮らせる」ということの中に、高齢者が生き生きと最後まで自分の生活の質を維持できるような社会の枠組みというものがちょっと見えると嬉しいなと思いました。

それは例えば、「子どもが光り輝き」なんですけど、老人もやっぱり光り輝かないとダメだと思うので、特に子どもが弱者であるので、子どもに力を入れたいということであがってくるのは嬉しいかなと思いますが、そういうことも思います。

それから、「自然と共生し、美しい環境を守るまちづくり」ですが、13 ページの1つ目の丸で「東部地域などの豊かな緑のほか、公園や河川といった身近な自然を守ること、自然環境の保全に努めます」とありますが、どちらかという、汚れないように守るとか、やらないように守るとか、守りの姿勢でいくよりも、やっぱりもっと「枚方市へ来ると緑が増えたね」というような、例えば、この市役所と駅の間は本当に立派な緑空間を作っておられますけれども、それが近隣レベルで「また緑が増えたね」というような、身近な自然を増やしていくということもできないかなと思わせていただきました。

新川部会長

ありがとうございました。いろいろと重要なご意見をいただきました。いかがですか。

三輪敦子委員

独居老人のことをおっしゃいましたけれども、独居老人に対する対策はすごく大切だと思います。子育てが安心なのと、それからひとりで老人になっても安心して暮らせること、そのためには、コミュニティがすごく大切だと思います。個人的にはNHKが孤独死という言葉が流行らせたことに私はすごく違和感を感じていて、この先の時代、ひとりで死ぬことは誰もが想定しないといけないんじゃないかと思うんですが、ただ、独りで亡くなった時に、半年、1年間、誰にも見つけてもらえないというのは、自分の将来としてもいやだろうなと。それが起こらないためには、やはりコミュニティの温かさみたいなことが大切かと思います。「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」というところは、老人も死ぬまで元気で動き回っている、動ける状態で一生過ごせるみたいな、そのあたりのことが大切かなと思います。

みなさんの議論を聞いていると、もう少しわかりやすい言葉で基本目標が書けるような意見がどんどん出てきていると思うので、今の表現からもう少し変えることは可能ではないかなと思います。そのことによって、恐らく施策も考えやすくなるのではないかなと思います。

三輪信哉委員

ちょっと危機をあおった私にも責任があるんですが、「危機はチャンス」という言葉がありましたけれども、要は、行政で何でしょうという時代から、やはり市民がお互いに助けあえるようになってきていることは、非常にコミュニケーションが豊かになってくるようなまちになって、それはそれでいいことだなと。だから、財政が大変だということで市職員の数が減ってきてサービスがどんどん落ちていくという、そこだけを見れば暗いんですが、そういうところがもっと地域の力の活性化で受け皿になっていく。そうするとコミュニケーション力が強くなっていく。

これも新聞情報で申し訳ないのですが、慶応大学が実施した東日本大震災前後の意識調査の中で「幸福度を感じるか」という調査で、実は、被災していろいろと物的には困窮するけど、実は幸福度はそう落ちてないんですね。それはなぜかという分析の中で、要はみんながお互いに支え合えるようになった。それで幸福感は高くなった。結論は、人のために何かできたことが嬉しいというのが実はそのアンケートの胆なんですな。

そういうふうに解釈するのは拡大解釈かなと思ながら見たのですが、日本国民の約7割が東日本大震災のときに支援したという情報もあるので、やはり人間の中には何か困っている方に手を伸ばすということの中から幸福度が生まれるということを読んできましたら、そういう社会がとつても健全だと思うんですね。そういう意味では、行政としては、できることが弱ってきて、その部分をみんなが支え合うというところに移していくようなさまざまな施策が盛り込まれることが生き残る糧となるという感想を持ちました。

新川部会長	<p>ありがとうございました。片仮名になりますけど、コミュニケーション、コミュニティが大事というのは、本当にそのとおりだろうと思いつながらお話を聞いていました。</p>
岡田委員	<p>それに関連してなんですけれども、「5つの基本目標」の4つ目は「人々が集い」から始まりますけど、単純に集っているだけという感じに聞こえてしまって、今のご意見の中で、やはり、助け合いや温かい部分があればと思っていましたね。ちょっとそういう表現になればと思います。</p>
新川部会長	<p>もともと、「人々が集い」のところは、若干、経済的な賑やかさというのが念頭にあったので、「人が集まるまち」というイメージだったんですけれども、逆に、もう少しコミュニティ的というか、人々の絆、結びつきとか、気持ちの通いあいとか、そういう集い方というのもありかもしれないですね。</p>
加藤委員	<p>僕はさっきどこに入れるか悩んでいたんですけど、「支え合う」ということでいくと、一番上のところかなと。「市民が支え合う安全でなんとかのまち」とかそちらの方に入れて、こっちはどちらかというと産業的な内容というか、産業にはあまり力を入れていないというのはあまり言っちゃいけないかな。ここをどうするかですけどね。先ほどの意見でいくと、例えば、守るといったときには農業ですよ。むしろ、前は活力にしていくような議論がありましたよね。それが「人々が集い、活力があふれる」というところに近いと思うんですけど、具体的な施策でどんなものを想定しているかにもよるし。実は今くずはモールってすごいですよね。商業の活性化みたいなことで、樟葉駅前の中核市街地活性化をかなり念頭におかれて、郊外型ショッピングセンターとしては非常に集客力があって、ちょっと西側に行くと西宮ガーデンズとたぶん同じくらいの頑張り方をしているところなんです。テナント構成からしても、市民の方がここに住んでいて非常に良かったと思えるようなショッピングセンターじゃないんですかね。</p>
新川部会長	<p>そこは、いろんな感じ方があるかもしれませんが。</p>
加藤委員	<p>たぶん、今までは大阪に行かないとあれくらいのテナントであるとか買い物ができなかったところが、地元でもできるようになっているということなんですけどね。</p>
徳久委員	<p>今、岡田委員がおっしゃられたことにつながるかもしれないんですけど、たぶん、「人々がつながり支え合うまち」のような温かい面がほしいとおっしゃられたんだと思うんですけど、実はこれがすごく大事なポイントだと思っていたのが、先ほど申しましたように、5つの基本目標は総花なので、個別政策がターゲットとしてあがっているんだと思うんですが、今おっしゃられたような「人々がつながり支え合うまち」というのであれば、それこそ、社会福祉であれ、教育であれ、防災、防犯であれ、いろんな政策をブリッジするものになってくるので、そういう架橋型の目標というのを入れ込むというの、ひとつの手だと思います。</p>
小原委員	<p>我々コミュニティの方では、挨拶というものを取り入れているのですが、ここにはそういうことはないのでね。何事の根本も挨拶から始まるので、そういうことにどう取り組んでいくかということで、挨拶についてももう少し考えてもおもしろいんじゃないかと思うんです。我々は口うるさいくらいに言うんですけども、なかなか挨拶は返ってきません。しかし、私のまちでは、みんなが何か言おうということでやっていますと、以前よりかなり挨拶が聞こえてきましたので、一度、ぜひ私のまちに来てください。</p>
新川部会長	<p>ありがとうございます。基本目標で「挨拶しよう」というのを入れるかとなると、ちょっとひっかかるかもしれませんが、少なくとも、その挨拶で、今、小原委員からありましたような地域のようすだとか、地域の皆さんの和気藹々とした姿であるとか、そういうものが具体化できれば、それに越したことはない。それが基本目標の我がまちの姿として出てくるということは、ひとつ重要な選択肢かなと思いますね。</p>

小原委員	愛媛県に行ったときに、田舎、田舎といっても愛媛市内ですが、子どもたちはみんな挨拶をするんですね。知らない人でもみんな挨拶。「ああ、いいまちやな」という感覚をまず受けましたね。
新川部会長	今は、知らない人に声をかけられないようにと、変な動きになっていますけど。
北川委員	徳久委員がおっしゃったことに通じるんですけども、私、まちづくりワークショップに参加させていただいて思ったことがあるのが、8回くらい会合があった中で、必ず、コミュニティだとかコミュニケーションが大事だという話がどの回でも出てきたんです。そうすると、やはりこの基本目標の中にも、すべてを網羅するような形で入れていくということが必要かなと思いました。
新川部会長	ありがとうございました。何人かの委員さん方からも共通して、同じ指摘がありますので、若干そういう観点で組み直した方がいいかもしれませんね。 その他いかがでしょうか。もちろん関連してでも、新しいところでも結構です。
徳久委員	委員が委員に質問するのはありますか。 やはり、枚方市の計画なので、枚方の方にいっぱい話してもらうのが筋だといつも思っているんですけど、北川委員はワークショップに参加していたということですが、きっと、ワークショップの中でもみんなが盛り上がりやすいテーマとか、みんなが必ずふれる問題というのがあるんだと思うんですけども、枚方市側から資料で上がってくるものは総花的に書かれているので、みなさんどこに関心を持たれていたのかなというのがわからないので、もしよろしければ、そういう情報をいただければと思います。
新川部会長	北川委員、少し記憶をたどっていただいて、もし、こんなことがみんなで盛り上がって議論になったということがあれば、何でも結構ですので、ご紹介いただけると私たちもとても参考になるとは思いますがいかがでしょうか。
北川委員	ワークショップ自体が、テーマを決めて論議するという内容でしたので、どの問題に関して盛り上がったというのはちょっと難しいですけども、私、参加していて思ったのは、やはりワークショップに参加しようという意識の高い方が集まっておられる中で議論していったということが、じゃあ、そこでの議論自体が市民の共通認識なのか、行政に関心のない方の意見は吸い上げられていないのかなというのは思ったんですけども。ちょっと回答になっていなくて申し訳ないです。
新川部会長	ありがとうございます。そこは、難しいですね。物言わぬ市民の声をどう対応するかというのは、民主主義というものを考えていくときに、こういう市民のための計画と言いながら一体どの市民なのか本当に難しいですね。それでも考えないといけないので考えましょう。 先ほど、加藤委員からは経済のところ、産業のところをどう書くかということで悩んでいるというお話でございました。それから、三輪委員から、環境について守るという表現より、もっと良い環境をつくるというような視点もいるよねということでご指摘をいただいたと思います。この都市化した住宅都市で自然共生と言われてもたしかに難しいことは、我々外から来ている人間にはそう見えることがあります。もう一方では、昔ながらの枚方にいらっしゃる方からすれば、それでも自然を守り合うという実感、そういう暮らしというのを心の中にいつも持っておられるかもしれません。そのあたりは、枚方市でお住まいの皆さん方から積極的にお話をいただければと思っていますが、いかがでしょうか。
徳久委員	枚方市は、花いっぱい運動とか行われているのですか。花いっぱい運動って、やっている地域はそんな都会に限らず、すごく田舎でもやっていたりして、国道沿いとかでプランターにお花を入れて、通っている人がきれいなまちだと思ってもらうようにしよう

	<p>ということをされていますが。</p>
宮原委員	<p>枚方市では、アダプト制度を作って、市民の方たちがそういうところにプランターを置いたり、それから、市が街路樹を植えているところの周りに花を植えたりしてくださるボランティアを養子縁組のようにして取り組んでいます。そして、行政は花の苗を無料で配布するという事はやっていますよ。かなりの市民が関わっているはずですよ。</p>
徳久委員	<p>先ほど三輪委員がおっしゃったように緑をみんなで増やすって私はすごく大事だと思っていて、それは、帰ってきたときにお花を見たりするとちょっとほっとするじゃないですか。本田委員がおっしゃっていたみたいに、住みたいとか帰りたいというのは、まちのイメージがすごくいいということと関係するんで、たしかに「環境を自然と共生して」というぐらい自然があるのかというのはたしかに問題なのかもしれないですが、ただ、住環境の中で緑を増やすことによって豊かな生活をするっていうのはすごく良いアイデアだと思って皆さんに伺った次第です。</p>
宮原委員	<p>市民の知っている情報としてなんですけれども、塀などをブロックじゃなくて生け垣にすることに対して枚方市はたしか助成金を出していたりしたと思いますので、結構、緑に対しては力を入れているんだと思います。</p> <p>行政の方と里山を一緒に見て歩いていて、枚方市ってこの辺にはない「にほんの里 100 選」に選ばれた「穂谷」という地域を持っていて、そこは鳥獣保護地域でもあるし、これまでベッドタウンで拓けてきていながら、そういう地域も持っているという大きな特色のある市ではないのかと思って見ていたんですけどね。でも、非常に荒れている実態も見て、そこを何とか保全しようとして、やはり、行政も力を入れてくださっていましたし、ボランティアの方たちや NPO などのいろんな団体もかなり運動をしている実態も見てきたんですけれども、捨てたものではないと思って見てきたんです。</p> <p>先ほどからお話を聞いていて、自然と共生して美しい環境を守るだけじゃないというのであれば、「美しい環境を守り、築くまち」ということも必要だと市民も思っているのかなと思っていました。</p>
加藤委員	<p>先ほどの 4 番のところですが、どうしても中心市街地活性化がちらちらして、人々が集いというところで、中身に何が書いているかという、枚方の特有の資源というか、地域の資源を活かして、それを活力につなげるようなことが書いてある。観光資源にしても人にしても、そういうニュアンスの方がより汎用性があるというか広がるかなど。ちょっとベタなので後で直してもらったらいんですけど、「地域の資源を活かし、活力があふれる」と。そうすると、農業と、例えば商業のネットワークを結ぶとか、あるいは里山でもちょっと使い方によってはいろいろなネットワーク型のビジネスにつながるとか、何かそっちの方向へ重点を移した方がいいんじゃないかなと思ったんですけどね。</p> <p>せっかくの地域資源がはたして活用されているのかと。それが枚方の魅力として外に情報発信できているのかと。だから、さっき言ったような「住むなら枚方」ということであれば、そういう情報発信もつけて、地域資源をもっと掘り起こして外にわかるような努力をした方がいいんじゃないか、そういう議論もあります。</p>
徳久委員	<p>「地域資源を発見し、」を入れた方がいいのではないかと</p>
新川部会長	<p>発見できていないのではないかと。</p>
加藤委員	<p>では、のりました。</p>
徳久委員	<p>適当な感じすみません。</p>

三輪敦子委員	<p>ここに来ることで自分の活力が引き出されるみたいなイメージも大切かなと思っていて、中心市街地の活性化というのはやはり大切かなと思っているところです。ちょっと前に住んでいた人間としては、枚方市駅周辺というのは、もっと魅力のある賑わいに作り替えることはできるだろうなということは強く感じています。</p> <p>一方で、今、宮原委員が言われたような里山の地域があるということも、枚方の強みかなと思っています。少し前に聞いた話なんですが、今の小学生が成人になる頃には、その人たちが就く仕事の6割は、今はまだ存在しない仕事だと聞きました。就労の形態もどんどん変わっていくし、仕事もどんどん変わっていく。私が想像できないような仕事や働き方がどんどん広がっていくということだと思います。</p> <p>そういう事例のひとつかどうかわからないですが、今の若い人たちの中で、例えば「半農半X」というような、農業をやりながら他のことをやって生活していくことを新たに選ぼうとする人たちが増えているということをいくつかの場所で聞きました。親の世代の農業を継いだ経営ではなくて、新たにそういうことをやろうという若い人たちが増えているということですね。枚方は、それこそ穂谷のあたりは、ある意味「半農半X」的なライフスタイルには、すごくいい立地かなとったりします。</p>
宮原委員	<p>専門農家はいないと思う。</p>
三輪敦子委員	<p>そう、専門農家はいないので、「半農半 X」とか、そういった新しい就業形態も含めて、人を惹きつけるようなまちということをアピールする ようなことも、この中に入れてたらどうかと思います。</p>
新川部会長	<p>前向きでいいですね。たしかに、眠っている資源を活かすということだけではなくて、その魅力をもっと積極的にどんどん開発したり、あるいは新しく組み替えていったりしながら、地域の魅力を増していく。それは中心市街地でもやるし、里山や農業地帯でもやっていく。ひょっとすると、住宅が中心の地域でもそういう資源があるかもしれない。特に人がいますから、人間そのものがとても大事な資源、資源というと叱られることになるんですが、人の力も大きいですよ。そういうものを本当はずいぶん見逃しているし、可能性をもっとひっぱり出していくと活力が増えるかもしれない。そんなイメージもあるかもしれませんね。</p>
加藤委員	<p>中心市街地活性化と書いていますけど、可能性はあるんですか。</p>
新川部会長	<p>もう、ざらっとした聞き方になってしまいましたが、もし事務局から何かあれば。</p>
事務局	<p>まさに、先ほど三輪委員におっしゃっていただいたこの市駅周辺というのが、当面は具体案になるかなと思います。</p>
加藤委員	<p>ということは、国にちゃんと申請してがっばり補助金を取ろうということでもなくですかね。</p>
新川部会長	<p>どこまでの中身なのか、これから基本計画で考えるのかもしれませんが。</p>
事務局	<p>これから具体的なプランを作っていく段階ですので、どういう形になるかというのは、これからです。</p>
加藤委員	<p>こういうのを書かれると、基本計画を国から認定をもらうのかなと思ってしまうので。結構ハードルが高くなっていますね。</p>
新川部会長	<p>ハードルが高いですし、しかも、国認定の中心市街地活性化本部の仕事になっても、うまくいかないところが圧倒的に多いということもあって、ここも悩みどころではあると思います。</p>

三輪敦子委員	今日、久しぶりに枚方市駅に降り立ちましたら、この間まであった近鉄百貨店がすっかり更地になっていて、何ができるのかと思ったら、素晴らしい将来のイメージ写真が貼ってあったんですけど、あれはどういうものになる予定なんですか。市の行政とは全く関係ないかもしれないんですけど。
本田委員	あれは、TSUTAYA の関連会社が手がけているんです。今、代官山では T-SITE という TSUTAYA の発展系のような施設があるんですけど、それとコンセプトを一緒にした施設ができる予定です。創業者の増田さんは、枚方は TSUTAYA の発祥の地、聖地ということから、かなり力を入れたものが計画されています。
三輪敦子委員	すごいですね。代官山にも引けを取らないものができるよ。
本田委員	大きさに足りないのものでそのままは無理ですが、コンセプトなどはそれに近いものがある。
三輪敦子委員	それをコアにして、枚方市に来る人がすごく増えることは想定されるわけですか。
本田委員	それを狙っておられますね。ほんとにどこにでもあるようなショッピング施設ではなくて、「あそこに行きたい」と市外からもそれを目的に若い人が来るようなものを作ると言っておられます。
三輪敦子委員	それって市としてはすごいチャンスですか。
新川部会長	何となく棚ぼたみたいな感じがしますけど。
三輪敦子委員	すごいチャンスのような気はしますが。
事務局	そうですね。枚方市駅周辺につきましては、一昨年再整備ビジョンを作ったんですけど、総合文化施設という計画もありまして、今おっしゃった、近鉄の跡地をソウ・ツーさんがやられます。あわせてここに大ホールがありますけれども、ここ自体が今の予定では、平成 31 年には向こうに総合文化施設ができますので空いてくると。市役所も含めて、この周辺があと 20 年か 30 年したら大きく変わっていると思いますが、そういう形で動かしたい。
三輪敦子委員	大ホールはどこかに移るんですか。
事務局	今、京阪の向こう側に旧国道 1 号があるんですけど、ラポールひらかたという建物があるのですが、あそこ自体が元々総合文化ホールと美術館と福祉会館の 3 つを建てる予定でして、財政的な問題があって、用地は買ったんですけど、福祉会館しか造っていませんので、残地の部分に今申し上げたホールの代替の総合文化施設というのを造って、こちらが更地になるという形になります。
三輪敦子委員	今の計画を聞くと、今からできる TSUTAYA の施設と合体させたような文化施設という方が望ましくないのかなと、ちらっと思うんですけど。
本田委員	あまり一緒にやらない方がいいかもしれない。
三輪敦子委員	ああ、そうですか、なるほど。
新川部会長	その他いかがでしょうか。だいたい、いろいろご意見をいただきましたが、どうですか。
加藤委員	先ほどの 10 ページのまちづくりのイメージですね。行政はある意味で方向性を示して

	<p>先導しつつ、たぶん、市民などでやっていけるように押していく、そういう位置づけだとすると、3つ並べるのは変なんですけど、行政はどこなのか、下なのか。市民とか事業者がいて、それが、生き生きと活力あふれるように下から支えてあげるようなイメージなのか、先ほど話題に出ましたが、そこは結論がなかったの、どうなのかなと思っただけです。時間があれば。</p>
新川部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>どうぞ、議論していただければと思います。こういう絵を描くときに横並びは珍しい。大体、三角形とか丸にして、バランス良く並べて、立体にして市民生活を支えるとか、そんな絵が大体多いんですが、なかなかユニークだと思って見ていたんですけど。すみません、余計な話をして。もし、委員さん方からも何かご意見ございましたら。</p>
小原委員	<p>やじろべえじゃないですか。</p>
新川部会長	<p>これは、やじろべえです。</p> <p>やじろべえでバランスをとるというのもいいかもしれない。何をどこへどう考えるかはなかなか難しいです。</p> <p>3つの枝が出ているやじろべえというのもありますね。すみません、混乱させて。その他いかがでしょうか。</p>
新川部会長	<p>基本構想の実現主体というのをどう考えていくか。大きく言えば、この基本構想の議論を始めた当初、最初に徳久先生から、やっぱり市民と一緒にやっていくということを強調して、それが大目標でもあるし、基本的な考え方でもあるし、全体の計画としての基本コンセプトのはずだということで、この点については、その後の議論についても「やっぱりそうだよね」ということだと思います。ただ、その市民と行政間をどう並べるかというところは議論しなかったの。ここは少しご意見があればいただければと思います。</p> <p>それから、「めざすまちの姿」について、今日は一つひとつの言葉についてもいろいろご意見をいただきましたけれども、全体としては、もう少し具体的な表現の仕方があっていいのではないかと、場合によっては、こういうふうに変える前の標語、住みたいとか帰ってきたいというところも含めて検討してはどうだろうかということでお話をいただきました。</p> <p>それから、基本目標については、「安全や利便性」について、もう少し「安全に歩ける」とか、あるいは「災害に強い」という目標の立て方があって、それに基づいて、安全面、利便性も大事ですというぶら下げ方もあるんじゃないかということでお話をいただきました。</p> <p>「健やかに、生きがいをもって暮らせるまちづくり」ということについて言えば、どうもこのままでは、曖昧模糊としているということもあって、高齢者が健康にそして心豊かに暮らしていけるようなまちのイメージを持ってもらってもいいんじゃないか。それから、子どもたちについて言えば、やっぱり子どもは安心して、産み、そして育てられるまちがあってこそ、教育も文化も盛んなまちになるのではないだろうか、というお話も出ました。</p> <p>「人々が集い、活力があふれるまちづくり」については、言葉の議論はありますが、もう少し枚方というまちが持っている、ある種の「ご近所の底力」というテレビ番組がありましたが、そういうところをしっかりと見据えた表現や、あるいは、そこをもっと将来に向けて活かしていくような発想があってもいいのではないかとというようなお話もいただきました。</p> <p>自然や環境のところ、やはり「環境を守る」だけではなくて、積極的に環境を築くというような視点もあっていいですし、「自然と共生」というときにも、単に一般的な自然というよりは、緑やあるいは具体的に枚方に残っている里山や農地であるとか、そういうところをイメージしながら、自然を枚方市民全体のものとして、どう一緒に守り育てていくのか。そういう観点も大事だなということでお話をいただきました。</p>

<p>新川部会長</p>	<p>それから、コミュニティやコミュニケーション、そういう枚方市民のこれからの心の持ち方や日々の動き方、そして、まちの中での、それこそご挨拶から始まるお付き合いの仕方、そういうものも含めて、まちの決定的な雰囲気に関わるような人の絆や結びつき、そういうコミュニティとかコミュニケーションがしっかりとまちを支えていくような、そういう市民が暮らしているまち、そういうイメージも全体を通していいんじゃないですかということで、「5つの基本目標」のどれにどうはまるかわからないですが、何か全体にかかるような気もします。そんなご意見もいただきました。</p> <p>というふうに、思い切ってまとめてしまったのですが、もし、各委員から追加あるいはこういう視点もあるよということがありましたら、言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。大丈夫ですか。</p> <p>それでは、予定をしておりました時間まであと7、8分になってしまいましたので、基本構想の内容についてのご議論は以上にさせていただきます。なお、それぞれの議論について、また後ほど事務局の方で取りまとめていただければと思いますので、よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、少し残った時間で、今後どういうふうに議論を進めていくのか、スケジュールも含めまして、少しご確認とそれからご調整をいただきたい。事務局の方から、ご説明いただければと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料3「総合計画策定スケジュール(案)」の説明)</p>
<p>新川部会長</p>	<p>どうも、ありがとうございます。ただ今、事務局がご説明をなさったように、基本構想につきましては、今日みなさん方からいただいたご意見、それから第2部会の方でもいろいろご意見いただいております。これを事務局の方で整理、集約していただく。そして、来月の審議会で、その内容について、改めてご確認いただく。その段階で決定というわけではなくて、この段階までの集約がされてくる、そういうご理解をしていただければと思います。</p> <p>また、11月17日の場で集約案が出てきても、なかなかご意見もご議論も出にくいかなと思いますので、また恐縮ですが、あらかじめ、事務局には少し早めに各委員の試案に対する提案のたたきのようなものをお示しいただいて、当日の審議、ご確認をスムーズに進められればと存じますので、よろしくお願いたします。そんなような進め方を当面考えてございますが、各委員、ご意見やあるいはご注文、ご質問などございましたらいただきたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>これまでご議論いただいたものが来月でどこまでまとまって出てくるか、多少不安なところもあるのですが、それでもまとめていかないとならぬので、少し思い切ったことになるかもしれませんが、次回、まとまったものを改めてご審議いただくということで、本日の部会は閉じさせていただきたいと思っております。</p> <p>この部会で、本当に熱心にご議論いただきましてありがとうございます。いろいろというアイデアをいただき、事務局は困るかもしれませんが、次の試案を楽しみにしていただければと思います。</p> <p>それでは、最後にその他ということがございますが、事務局の方から何か連絡事項などございましたらよろしくお願いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日の資料等につきまして、ご不明な点等ございましたら、恐れ入りますが10月23日の木曜日までに、電話、メール等で事務局の方までご連絡いただきますようお願いいたします。また、本日の資料につきましては、机の上にそのままにしておいていただきましたら、委員専用のバインダーに閉じて保管させていただきます。</p> <p>次に、本日の会議録につきましては、事務局で案を作成しました後に皆様にご確認いただき、その結果を部会長と調整し、決定したものをホームページで公表してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>次回の審議会は11月17日(月)午後6時から、ここ第3・4委員会室で開催させていただきますので、こちらもよろしくお願いたします。以上でございます。</p>

新川部会長	次回のご参集の方もよろしくお願ひしたいと思ひます。 それでは、以上をもちまして、第2回枚方市総合計画審議会第1部会を終了したいと思ひます。 本日はお疲れ様でございました。
-------	---